

「情報公開文書」

受付番号： 受付-23819

課題名：咬合平面の左右的傾斜の改善による顎関節部の形態的・機能的変化の解析

1. 研究の対象

2008年4月から2019年3月までの期間に東北大学病院矯正歯科にて矯正歯科治療を行なった永久歯列完成後の患者の中で、咬合平面の左右的傾斜が認められた患者

2. 研究期間

2019年5月（倫理委員会承認後）～2023年3月

3. 研究目的

咬合平面の左右的な傾斜を改善する方法として、上顎骨骨切り術による外科的矯正治療、歯科矯正用アンカースクリューを固定源として歯の移動を行う方法があげられる。本研究は、これまでに東北大学病院矯正歯科にて矯正歯科治療を行なった患者資料を用いて、それぞれの治療法における顎関節部の形態的・機能的評価を行い、咬合平面の左右的な傾斜を改善することの臨床的意義を明らかにする。

4. 研究方法

- ・ 2008年4月から2019年3月までの期間に東北大学病院矯正歯科において矯正歯科治療を行なった永久歯列完成後の患者の中で、咬合平面の左右的傾斜が認められた患者を抽出する。
- ・ 全被験者を歯科矯正用アンカースクリューで治療した患者、外科的矯正治療で治療した患者、咬合平面の左右的な傾斜にアプローチしなかった患者の3群に分類する。
- ・ 矯正治療開始時と終了時の患者資料（頭部X線規格写真、CT、ナソヘキサグラフ、顎関節MRI）を計測対象とする。
- ・ 側面頭部X線規格写真に対し、線分析、角度分析を行い、正面頭部X線規格写真に対しては咬合平面の左右的な傾斜を計測する。矯正治療開始時における顎顔面骨格系の評価と矯正歯科治療における変化を定量的に評価する。
- ・ 顎関節のCT画像を、顎顔面手術シミュレーションソフトウェアに入力し、矯正治療開始時と術前資料終了時の顎関節空隙の距離の変化を定性的、定量的に評価する。
- ・ ナソヘキサグラフのデータに対して、矯正治療開始時における顎運動の評価と矯正歯科治療における変化を定性的、定量的に評価する。
- ・ 顎関節MRIに対して、矯正治療開始時における関節円板の転位について評価する。
- ・ 以上の評価項目について治療前後の比較および群間比較を行い、咬合平面の左右的

な傾斜を改善する治療の有無における違い、治療方法による違いについて明らかにする。

5. 研究に用いる試料・情報の種類

頭部 X 線規格写真、CT、ナソヘキサグラフ、顎関節 MRI の資料を用いる。これらの資料は通常の診療で使用した既存の資料である。

6. 外部への試料・情報の提供

該当なし

7. 研究組織

「本学単独研究」

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 4 番 1 号
東北大学大学院歯学研究科 顎口腔矯正学分野
TEL : 022-717-8374 FAX : 022-717-8378
清流 正弘

研究責任者：

溝口 到 職名 教授
東北大学大学院歯学研究科 顎口腔矯正学分野
〒980-8575
住所 仙台市青葉区星陵町 4 番 1 号
TEL 022-717-8374 FAX 022-717-8378
E-mail mizo@tohoku.ac.jp